

■令和2年度第2回和歌山県スポーツ推進審議会 議事録

・日時：令和3年3月23日(火)13:30～15:00

・場所：ホテルアバローム紀の国 2階 鳳凰の間

◆出席者：◎山下 郁夫（県体育協会副会長）

○橋爪 静夫（学識経験者）

太田 謙二（県小学校体育連絡協議会会長）

神谷 禎之（県中学校体育連盟会長）

鴻池 清司（学識経験者）

雑賀 敏浩（県高等学校体育連盟会長）

阪本 憲二（障害者スポーツ代表）

島本 久仁（県テニス協会副理事長）

田村 光穂（和歌山県スポーツ振興財団常務理事）

野田 修司（学識経験者）

坂東 あつみ（女性スポーツ代表）

彦次 佳（学識経験者）

三井 利仁（学識経験者）

南 由佳（学識経験者）

森下 順子（学識経験者）

※◎会長、○副会長

◆事務局： 宮崎教育長

松本生涯学習局長

橘参事（プロジェクト推進室長）

高橋スポーツ課長

川口スポーツ課副課長

上野スポーツ課副課長

橋爪スポーツ課企画振興班長

阪部スポーツ課プロジェクト推進室専門員

安井スポーツ課生涯スポーツ班長

相谷スポーツ課競技力向上推進班長

川畑義務教育課副課長

藤下県立学校教育課班長

山本義務教育課指導主事

安藤県立学校教育課指導主事

新解障害福祉課主幹

◆概要

1 開会

2 教育長あいさつ

3 議題

(1) 令和3年度におけるスポーツ団体に対する補助(案)について

～資料第1-1、2号により事務局(スポーツ課橋爪班長)が説明～
〔質疑応答等なし〕

(2) 令和3年度における本県スポーツ振興の取組について

・令和3年度和歌山県生涯スポーツ振興事業方針(案)について

～資料第2-1号により事務局(スポーツ課安井班長)が説明～
〔質疑応答等〕

(委員)

リレーマラソンについて、田辺市スポーツパークから紀三井寺公園陸上競技場に会場が移った経緯を教えてください。

(事務局)

リレーマラソンは、4年前にワールドマスターズゲームズの駅伝の開催地が田辺スポーツパークに決定したことからランニングイベントをして気運を盛り上げようということで始まった。

開催にあたって田辺市も費用を負担していたが、ワールドマスターズゲームズがコロナ禍で1年延期となり、田辺市では費用負担が難しいという話になった。その中で、開催方法、事業規模、利便性など総合的に判断し、紀三井寺公園陸上競技場での実施が決まった。

(委員)

1年延期になったワールドマスターズゲームズの駅伝会場も変更になったのか。

(事務局)

ワールドマスターズゲームズの会場が変更になったというわけではない。

(委員)

予算について、苦労したことは何か教えていただきたい。また、マスターズ発祥の地で

ある和歌山において、現在開催しているジュニア駅伝のコースで国際マスターズ駅伝を行ってはどうか。現在、全日本マスターズ駅伝、国際マスターズ駅伝ができないか考えている。また、提案したいと思う。

(事務局)

予算はコロナ対策での歳出が大きくなっているため、影響を受けて予算が厳しい状況である。その中で、特に競技力向上においてベースである2億5千万を確保するということが、また、施設の老朽化に伴い、施設ごとに検査し修繕を行っていくため、その費用の増加に対応しなければならないことなどが苦勞したと言える。

(事務局)

マスターズ駅伝については、今後の生涯スポーツ振興の施策を考える上で貴重なご意見として受け承る。今後の検討課題とさせていただきたい。

(2) 令和3年度における本県スポーツ振興の取組について

・令和3年度和歌山県競技力向上対策基本方針(案)について

～資料第2-2号により事務局(スポーツ課相谷班長)が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

ジュニア駅伝も回を重ね、出場した選手は非常に技術力も向上しレベルアップしていると感じている。その結果、京都の全国高校駅伝で和歌山県の成績がどうなっているか説明していただきたい。

(事務局)

ジュニア駅伝で活躍した選手は本県の高校に進学し、県内でも活躍している選手がたくさんいる。今年度は男女とも智弁和歌山高校が出場して頑張ってくれた。

また北高校のOB、OGの選手が大学駅伝、箱根駅伝、実業団駅伝を走る選手として出てきている。着実に選手が育っていると思う。

(委員)

私もそのように感じている。今の高校駅伝は、全国レベルで私立の学校が非常に強い。

和歌山県はジュニアを小学校からずっと育て、その中から今全国レベルの選手も出てきている。だからジュニア強化は基本的には非常に大事だと思っている。今後とも、力を入れて頑張ってもらいたい。

(委員)

広域スポーツセンター育成事業の総合型クラブの件についてお聞きしたい。

現在、県内 19 市町村で 49 クラブが活動中。令和 3 年度創設目標が 30 市町村に 70 クラブで、21 クラブ増えると現状目標値が上がっているが、これはどのような仕組みか。

また、他府県では学校部活動と総合型クラブとの連携が全国的にもすごく活性化し、議論されている。和歌山県の現状をお聞きしたい。

(事務局)

総合型クラブについては、現在県内 25 市町に合計 62 クラブが創設をされている。

未設置の 5 市町については、創設に向けて働きかけを続けていく。設置済みの市町でもまだまだ創設したいところも出てきているので、一つでも多くの総合型クラブを作ってもらい、地域のスポーツ環境の充実に努めていっていただければと考えている。

運動部活動と総合型クラブとの連携については、現在部活動の指導を担っているところは把握できていないが、来年度からかつらぎ町のいこらクラブが部活動の指導に少し入っていただくということも聞いているので、それを足がかりに多くの学校、地域において総合型クラブが部活動の指導に携わっていただければと考えている。

(3) スポーツ生活に関するアンケート(案)について

～資料第 2-2 号により事務局(スポーツ課安井班長及び島田指導主事)が説明～
〔質疑応答等〕

(委員)

前回からの改善点等は、国やその他の自治体で行われているスポーツ振興、基本計画などにある程度忠実に寄り添ったものであり、和歌山県で今後どのようにスポーツの振興を図っていけばよいのかを探れるように作成した。欲を言うと、市町村数が非常に多いので、もう少しお金がつけば、各市町のまとまったサンプル数をとって各市町の特徴を炙り出せると思うが、その辺りは今後の課題ということで進めていきたいと思っている。

若干、アンケート項目の量が増えているのは、ワールドマスターズゲームズの関係が入っているところを加味していただければと思う。

(委員)

和歌山県は紀北、紀中、紀南という形で縦に長いので、市町村ごとの得意とするスポーツ、好きなスポーツの特徴があると思う。そういう意味では、先生がおっしゃったように、市町村ごとにそれぞれ出して、それをまとめていく。ひいてはそれに基づいて、その地区の得意とするスポーツに力を入れていただき、競技力の向上に努めていく形に進んでくる

と思う。一度、市町村のデータを受け取って、やっていただければ大変うれしく思う。

(委員)

アンケート 2,400 人は、20 歳代から 70 歳代までで何人分の 2,400 ですか。どういう観点で 2,400 人になったのか、参考に教えてほしい。

(事務局)

アンケートの人数は、その人口に対して何%ということ抽出していくので、この場で何人という数は、お答えできない。こういったアンケート調査、社会調査の中では、人口何万人あたりからどれぐらいアンケートをとったら、信頼度が 90%以上あるとか 95%以上あるという計算式がある。和歌山県の場合人口 90 万人、100 万人と仮定し、100 万人で信頼度係数が 96%。これは結構高い数字です。一般的には 95%が信頼度係数です。さらに精度の高い 96%に設定した場合 100 万の人口に対して 2400 人の標本数があると答えが出たので、2,400 を基準に考えている。

4 報告事項

(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 関連について

- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック 聖火リレー
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック 事前キャンプ

～資料第 4-1 号、第 4-2 号により事務局（スポーツ課阪部専門員）が説明～
〔質疑応答等〕

(委員)

聖火リレーについては、インターネット中継をずっと続けて行うのか。

(事務局)

全ルート追いかけて、それをインターネット中継で配信するという形になる。

(委員)

テレビ和歌山の放送はあるのか。

(事務局)

テレビ和歌山の放送はない。NHKのカメラで撮り、ライブ配信をする形になる。

(2) 本県関係選手の活躍状況について

～資料第 5 号により事務局（スポーツ課相谷班長）が説明～
〔質疑応答等〕

(委員)

本県は10名ぐらいの目標値だが、希望的観測でもいいが、あと何人ぐらい可能性があるのか、わかる範囲で教えてほしい。

(事務局)

競技団体からの情報や調べている中では、スケートボード競技の四十住さくら選手、フエンス競技の東晟良選手、莉央選手の姉妹が可能性があると考えている。

パラリンピックにおいても、3名ほどの活躍を期待している。

(3) ワールドマスターズゲームズ2021 関西について

～資料第6号により事務局（スポーツ課阪部専門員）が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

丸1年伸びたが、今募集するのは難しいのではないか。

(事務局)

今は我慢の時期と思っている。オリンピック開催の気運に乗って、幅広く広報していきたい。本県から5,000名参加の実現に向け頑張っていきたいと思っている。

(4) 令和3年度全国高等学校総合体育大会競技会場・競技日程について

～資料第7号により事務局（県立学校教育課藤下班長）が説明～

〔質疑応答等なし〕

(5) 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

～資料第8号により事務局（義務教育課山本指導主事）が説明～

〔質疑応答等〕

(委員)

小学校は全国平均を上回っているのはすごい。長年の積み重ねである。

今、小学校の体育の研究校に居るので、特に体力については敏感に感じている。

やはり授業づくりだと思う。小学校や中学校の段階で、子供たちも運動するのが嫌だと思えば、後々に響いてくると思うので、運動との出会わせ方が大事だと思っている。あとはやはり授業。学校の先生も頑張り、子供たちも生き生きと授業をする。それが遊びにも生きて、休み時間は、ほとんどの子が運動場に出て遊ぶという状況がある。そういういい

流れを、これからもやっていただきたいと思う。

コロナに関しては、大変苦勞したし、今もしている。もしかしたら、その影響で数値的にも落ちているかもしれない。

ただ、運動の楽しさを可能な限り子供達に伝えていくのが一番大事だと思っている。

(委員)

平成 20 年、ものすごく順位が低い時に体育教師として中学校で勤務していた。

中学校でも、授業の取り組み、授業づくりを第一に考えて、取り組んできた成果だと考えている。

ここ数年間で、部活動に対する取り組みがかなり変わってきている。昔であれば、練習時間がただただ長いというところから、休養を取りながら適切な時間で部活動を行うように変わってきている。その成果が今、子供たちの体力に現われていると考えている。

(委員)

和歌山にはたくさんいいことがある。

人、景色、食、さらに歴史。非常に全国ではまれな県ではないかなと思っている。

比較的悪いところがある。何もしない。あまり協力しない。あまり考えない。もう一つ、情熱がない。和歌山県以外から来た人の方が、頑張っているように思う。私は、和歌山は日本の三本の指に入るいいところであると思う。PRをひと工夫をした方がうまくいく。それをみんなで考えた方がいい。もう少し和歌山を売り出して、いいところを後世に伝えたらと思う。

(委員)

来年、ワールドマスターズゲームズでは、外国の方がたくさんお見えになるので、是非ともPRに県民一同協力していければと思う。

5 閉会